

宮城県石巻西高等学校 第2学年 英語科学習指導案(細案)

指導日時:令和2年 11月9日(月)第4校時

指導学級:2年3組 (男子17名,女子23名)

指導者:英語科 教諭 熊谷亜紗

宮城県石巻西高等学校 Can-Do List

CEFR-J	外国語表現の能力		外国語理解の能力	
	Speaking	Writing	Listening	Reading
A2.1	自分の意見や感想について,メモを取ったり準備をしたりした上で,平易な文で述べることができる。	身の回りの話題について,簡単な英語で5~6文程度書くことができる。	日本人の先生による簡易な英語の指示を理解できる。	初見の簡単な説明文を読み,ある程度推測をして筆者の意思をほぼ読み取ることができる。

1 単元名 英語表現Ⅱ Lesson 13 *Run, Melos!* (第一学習社「Vivid English Expression Ⅱ」)

2 単元の目標

(1) ペアワークやグループワークにおいて積極的に発言しようとしている。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) ペアやグループでの話し合いにおいて,相手が理解できているか確認しながら適切な発言ができる。

【外国語表現の能力】

(3) 文法などの規則に則って,英文の内容を正しく理解できる。

【外国語理解の能力】

(4) 知覚動詞+O+原形[分詞]/使役動詞+O+原形/have [get]+O+過去分詞を用いた文を理解できる。

【言語や文化についての知識・理解】

3 指導にあたって

(1) 単元について

本課では,SVOCのCに現在分詞・過去分詞・原形不定詞が用いられる構文を学習する。初めに知覚動詞を用いた表現を学習した後,使役動詞を用いた表現の学習を行う。SVOCの形と,現在分詞と過去分詞と原形不定詞の使い分けに注意して使い方を覚えることが目標である。前課で学習した現在分詞と過去分詞の使い分けも含めて,本単元で改めて分詞の使い方を定着させるよう促したい。

(2) 生徒の実態

年度初めの授業で実施したアンケートでは英語が好きと回答した生徒が半数以上おり、英語の学習に意欲的な生徒が多い。ペアワークやグループ活動におけるコミュニケーション能力も高く、わからないところは互いに教え合う姿勢が見られる。英語の4技能に関しては、英語を聞くことが得意だと感じている生徒は多いが、英語を話すことが苦手だと感じている生徒が大多数であり、ほとんどの生徒が英語で話す力を伸ばしたいと考えている。英語で話すことが難しいと感じてしまう理由の多くは、語彙力が不足している点と文法の理解が浅い点にあると考えられる。前回の考査の結果を受けて、英語の文法への理解が足りないことを自覚した生徒も多いため、間違いを恐れずに話すことができる雰囲気作りと、文法への理解を深め、自信を持って会話ができるようになるための助けとなるような授業を展開していきたい。

(3) 指導について

本単元で学習する知覚動詞や使役動詞を用いた表現方法を理解するためには、前課で学習した分詞の使い方をしっかりと定着させておく必要がある。今年度初めから9月までは教員が文法の解説を行い、その後に問題演習に取り組む形式で授業を行っていたが、生徒が自分で文法を調べて理解しようとする力を身に付けさせるため、10月以降は生徒が自分で文法のポイントを調べてまとめる時間と、生徒同士で文法解説を行う時間を設けている。今年度より本校で導入されたスタディサプリでの講義動画の活用も促しつつ、教科書や文法書などのテキストをすべて活用しながら英文法への理解を深めながら知識をインプットする習慣を身に付けさせたい。また、生徒自身が身に付けた知識をアウトプットする活動を設けることで、「理解したつもり」になっている生徒に気づきを与え、自分の理解した内容を言葉で言い表すためのコミュニケーション能力や表現力も養うような主体的・対話的な学びの場を設けたい。

4 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
グループ内で文法を学習する活動や教え合う活動において積極的に発言し、文法のポイントを伝えようとしている。	ペアでの英会話やグループで文法を教え合う活動において、聞き手の理解を確認しながら適切な発言ができる。	文の構造や表現の意味、場面の状況などを考えながら、英文の内容を正しく理解できる。	知覚動詞+O+原形[分詞]・使役動詞+O+原形、have [get]+O+過去分詞の使い方を理解できる。

5 単元の指導と評価の計画(全2時間)

学習項目	時数(本時)	主なねらいに対する 主な学習活動	評価の観点				学習活動における主な具体的評価基準
			関	表	理	知	
Lesson13 知覚動詞 使役動詞	1	主なねらい:知覚動詞・使役動詞の使い方を理解する。					・文法のポイントについて解説シートにまとめることができる。(観察・解説シート提出) ・文法のポイントについて理解した上で,教科書の問題を解くことができる。(ノート提出)
		・文法のポイントについて解説シートにまとめたりノートに答えをまとめたりしている。	●		●	●	
Lesson13 知覚動詞 使役動詞	2 (本時)	主なねらい:知覚動詞・使役動詞の使い方について説明できる。					・文法のポイントについてわかりやすく解説できる。(解説シート・評価シート提出) ・文法のポイントのわからないところを教え合ったり,わからないところについて積極的に質問したりしようとしている。(観察)
		・文法のポイントについて説明したり,わからないところは積極的に質問したりしている。	●	●			

7 本時の指導

(1) 題材名 Lesson 13 *Run, Melos!*

(2) 本時のねらい

・グループで文法のポイントを教え合う活動を通して,知覚動詞と使役動詞を用いた表現についてわかりやすく説明したり説明を聞いたりすることができる。 【コミュニケーションに対する関心・意欲・態度】

(3) 本時の評価規準

評価の観点	具体的評価基準	Aとする具体的な姿	Cの生徒への具体的手立て
コミュニケーションに対する関心・意欲・態度	グループで文法のポイントを教え合う活動を通して,知覚動詞と使役動詞を用いた表現についてわかりやすく説明したり説明を聞いたりすることができる。	グループで教え合う活動の中で,文法のポイントについて自分なりに調べたことを説明したり,わからないところは積極的に質問したりすることができる。	文法のポイントについて上手く説明できない生徒は,同じ文法ポイントを調べたクラスメイトに教わったり,わからなかった部分について後から教師に質問したりできる機会を設ける。

(4) 学習指導上の工夫

本時の学習にあたっては、文法を主体的に学ぼうとする姿勢や、グループ活動において聞き手に向けて理解しやすい説明をする力が求められる。昨年度から英語の授業でスピーキングテストやスピーチテスト、プレゼンテーションなどを定期的に行っている学年であることから、グループ活動などで話すことは慣れているが、文法の解説を行うにあたっては聞き手が理解しやすい説明をする力が求められるため、教科書や文法書などから理解しやすい例文や解説を見つけ出したり、スタディサプリの講義動画を参考にしたりしながら、よりわかりやすい解説ができるように促したい。文法書や問題集、スタディサプリの動画を活用できていない生徒にその活用方法を教える機会とした上で、主体的に学習するために必要なスキルも身に付けさせたい。

(5) 準備物

教科書、授業用ノート、解説シート(A4 サイズの白紙 1 枚)、評価シート(B6サイズの白紙 1 枚)、タイマー

(6) 本時の展開(50分)【2時限中の第2時】

段階	学習活動と主な発問 (●予想される生徒の反応)	形態	指導上の留意点	評価 (評価方法)
導入 10分	1. あいさつ(1分) ・英語であいさつをする。 2. Warm Up(4分) ・簡単な単語当てクイズを行う。 3. 導入(5分) ・前時の振り返りと本時の流れと目標を確認する。	一斉 ペア 一斉	・教科書の英文に登場する単語を用いる。 (Melos/principal)	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> Today's Goal : We can explain how to use “知覚動詞”and”使役動詞”. </div>				
展開 30分	4. 役割の確認と事前準備(5分) ・グループごとに役割分担と解説を行う順番を確認する。 ・自分の担当する文法について改めて復習し、準備を行う。 ●文法の理解が曖昧な部分がある。	グループ	・自分でまとめた解説用シートを振り返りながら、重要なポイントを確認する。 ・理解が曖昧な部分はこの時間のうちに質問するよう促す。	

	<p>5. グループ内で文法解説(10分)</p> <p>・グループごとに Study Point 1(知覚動詞)と Study Point 2(使役動詞)についての解説を行う。</p> <p>●上手く解説できない。</p> <p>●文法のポイントを理解できない。</p>	<p>グループ</p>	<p>・グループのメンバーに聞こえる声で解説するよう助言する。</p> <p>・解説を聞き、わからないところは教師か周りに質問するよう促す。</p>	<p>・グループで文法のポイントを教え合う活動を通して、知覚動詞と使役動詞を用いた表現についてわかりやすく説明したり説明を聞いたりすることができ。【関心・意欲・態度】(観察)</p>
	<p>5. グループ内で問題の解答解説(10分)</p> <p>・グループごとに教科書の問題の解説を行う。</p> <p>●上手く解説できない。</p> <p>●何故その答えになるのか理解できない。</p>	<p>グループ</p>	<p>・グループのメンバーに聞こえる声で解説するよう助言する。</p> <p>・解説を聞き、わからないところは教師か周りに質問するよう促す。</p>	
	<p>6. 発表の振り返り(5分)</p> <p>・互いの発表の良かったところや改善すべき点について、評価シートに意見を書く。</p>		<p>・次回の発表をより良くするために効果的なコメントを書くように伝える。</p>	
<p>まとめ 10分</p>	<p>7. 英作文(8分)</p> <p>・知覚動詞や使役動詞を使って自分の身の回りの話題について英語で表現し、グループ内で発表する。</p> <p>●何を書いたら良いか考えが浮かばない。</p> <p>8. 次回予告</p> <p>次回の授業について説明する。</p>	<p>個人 グループ 一斉</p>	<p>・アイデアが浮かばない生徒のために、参考しやすい例文を提示しておく。</p>	